



LINEアプリでエレベーターをタッチレスで利用できる「エレトモ」

ニューノーマル時代のスタンダードとなる標準型エレベーター「アーバンエース HF」。シンプルでクリーンなデザインと先進の機能が、心地よい空間に包まれて移動する上質な体験をもたらす。

賢者の選択
FUSION

ニューノーマル時代の安全・安心・快適を実現

お客様の声が生み出した新モデル「アーバンエース HF」

日立ビルシステムが4月に発売した標準型エレベーターの新モデル「アーバンエース HF」は、新型コロナウイルスの感染拡大で大きく変わった社会の「新常态（ニューノーマル）」のニーズにいち早く応える「Standard for the New Normal」のソリューションとして登場した。コロナ禍の中で安全、安心、快適を実現する商品に仕上がったのは光富社長が進めた「お客様の声を経営に生かす」という経営改革の成果だった。



株式会社日立ビルシステム
Shinya Mitsudomi

光富眞哉

急展開のコロナ禍の1年 ニューノーマル時代に迅速に対応 企業文化を変える組織改革

エレベーターは不特定多数の人が利用する、建物内の移動に不可欠な設備である。コロナ禍では感染のリスクを恐れる人は多いだろう。そんな利用者の不安を和らげる仕組みが「アーバンエース HF」にはあるのだ。

一定時間が経過すると、自動で扉が開き、新開発の強力なファンでエレベーター内を換気し、その後自動で扉を閉めて「ナノイーX^{※1}」を発生させ、空気を清浄する「かご内クリーン運転」の機能を標準装備にした。またボタンを触らずにセンサーに手をかざせばエレベーターを呼んで行先階を指定できる「非接触登録装置」や、乗車率に応じて密集状態を回避して運転する機能などを有償で追加できるようにした。

新しいソリューションで 心地よい空間を実現

「アーバンエース HF」の開発は、もちろんコロナ禍の前から進んでいた。日立昇降機製品・サービスの開発コンセプトである「HUMAN FRIENDLY（HF）」を具現化するべく、世界的なプロダクトデザイナーの深澤直人氏の監修で、統一感のある色調と凹凸の少ないフラットな

美しい空間を実現し、心地よく利用できることをめざした。そこに2020年春からのコロナ禍が加わり、急速にニューノーマルへのソリューションを付け加えることになった。

「アーバンエース HF」は一般的なマンション、オフィスや病院などの主要な市場で導入される標準型エレベーターで、日立ビルシステムにとっては主力商品といえるもの。それだけに用意周到に開発が進んでいたが、コロナ禍で社会が一変し1年間で新たなスベックがいくつも加わるという急展開をみせたのだ。

わずか1年間でニューノーマルのスタンダードとなる製品を作る。そこには、2020年4月に社長に就任した光富眞哉氏の強い思いがあった。

日立ビルシステムは昇降機の製造、新設、保全、リニューアル、さらにはビルソリューションをトータルに手掛けるリーディングカンパニーである。国内だけを見ても18万台の昇降機などのビル設備がネットワークにつながり、24時間体制で遠隔監視されている。エンジニアや営業担当者が日々、様々なお客様と接し、お客様の声をつぶさに聞ける立場にあった。

「フロント主導」の経営で 変化を先取りした新製品・サービス提供へ 「LINE^{※2}」でエレベーター呼び出しも

光富社長は就任後、「お客様の声をクイックに経営に生かすことが大事だ」との思いを強くし、どのように実現するかを社内ですべて議論したという。

そこから生まれたのが「フロント主導」の経営であり、現場の声を生かすために実施されたのが、縦割りの事業部制の廃止と、支社をはじめとする「フロント」から集まる市場の声を捉え、商品開発やサービスの強化につなげる横断的な戦略組織の新設を中心とする組織再編だった。

「フロント主導」の経営は「アーバンエース HF」の商品開発にも生かされた。「かご内クリーン運転」などはその実例だが、他にもユニークな取り組みがある。

日立ビルシステムと保全契約が結ばれているエレベーターについて、利用者はSNSアプリの「LINE」でエレベーターと友だちになれば、スマホで呼び出したり、行先階を登録できたりするサービス「エレトモ」を開発した。「私たちのお客様はデベロッパやゼネコンなどの業界のプロだけでなく、ビルオーナーやマンションの管理組合のような一般の方々が多くいらっしゃる。そのため、BtoBtoCのアプローチが重要である」と光富社長は語る。

地震や風水害にも備えた スマホ活用の新サービス

ニューノーマル時代は新型コロナウイルスだけではなく、気候変動による大規模災害に対する新たなソリューションも求められる。「アーバンエース HF」ではビルオーナーや管理者向けの新サービス「BUILD LINK」に対応している。

「BUILD LINK」は地震時にスマホで復旧状況を把握できたり、ゲリラ豪雨などによる冠水に備えてエレベーターを最上階に退避させるといったことが行えるシステムだ。

一般的に災害時のエレベーターの復旧状況は保守会社に確認しないと分からないが、ビルオーナーや管理者がいつでもどこからでも確認できるようにした。お客様の災害時の備えや働き方改革に貢献するソリューションだ。

光富社長は「今後のお客様のニーズに耳を傾け、市場の変化を先取りして迅速に新しい製品・サービスを提供していきたい」と言う。「フロント主導」の経営は一層、磨きがかかっているようだ。

※1「nanoe」「ナノイー」及び「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。
※2 LINE及びLINEロゴは、LINE株式会社の登録商標です。

Profile

【みつとみ しんや】1958年福岡市生まれ。1982年日立製作所に入り、38年間鉄道事業に従事し、2018年に執行役常務。2020年4月に日立製作所執行役常務/ビルシステムビジネスユニットCEO兼日立ビルシステム代表取締役 取締役社長

株式会社日立ビルシステム

本社 〒101-8941 東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地（ワテラスタワー）
電話 03-3295-1211（代表）
URL https://www.hbs.co.jp/
代表取締役 取締役社長 光富眞哉
創業 1956年
従業員数 約9000名
事業内容 エレベーター・エスカレーターなどビル設備の製造、販売、据え付け、保守、リニューアルなど



賢者の選択
★今回の放送内容は、
賢者の選択ホームページをご覧ください。

企画制作：矢動丸プロジェクト

TV放送日

2021
9/27
放送
サンテレビ
サンテレビ【兵庫県・大阪府全域】
(月) 22:00~

2021
9/28
放送
BS12 トゥエルビ
BS12 TwelIV【全国放送】
(火) 21:30~